

2026年度 編入学試験 出題の意図

科目	出題の意図
英語	<p>大問Ⅰ（38点：長文読解＋語彙・要旨把握）狙い：AI時代における外国語学習の社会的・象徴的価値を論じる評論文を素材に、文脈に即した語彙の同義判断（語の機能・語感・コロケーション）段落ごとの主張関係（総一分、対比、因果）の把握パラフレーズ認識・推論（複数段落の統合理解）指示語・照応の解決と主題の追跡を評価する。単なる事実拾いではなく、筆者の立場（主張の一貫性）を要約できるか、語彙を「辞書的意味」ではなく文脈で適切に解釈できるかを問う設計した。</p> <p>大問Ⅱ（24点：文法・語法）狙い：大学レベルの英文処理に必須の統語運用の正確さを多肢選択で測定。規則知識を“読める・書ける文”に即して素早く適用できるかを狙っている。</p> <p>大問Ⅲ（12点：並べ替え・談話復元）狙い：専門話題を含む英文断片を文法的整合・意味的連続性に基づいて再構成する力を評価。行動経済学・生命科学・美術史・社会規範など異分野トピックを扱うのは、語彙知識の多寡ではなく英語の結束性理解を測るため、背景知識に依存せず英文そのものの手掛かりで正解に至れるよう設計している。</p> <p>大問Ⅳ（26点：英作文 100語程度）狙い：編入後の学修計画や卒業後の展望を題材に、自分の経験を根拠にした論理的記述を求め、限られた語数で筋の通った自己表現ができるか、大問Ⅰ～Ⅲで測った受容的能力を産出に接続できるかを確認する位置づけとなっている。</p>
数学	<p>編入学試験では、大学に編入してから必要とされる数学の素養として、高校数学の復習及び大学初年次の微積分・線形代数の基礎的な計算運用能力を問うことを意図した。</p> <p>高校数学の復習としては複素数の絶対値と偏角や二次曲線の接線(数学C)、大学初年次の微積分としては逆三角関数、偏微分と重積分、大学初年次の線形代数としては行列の掛け算と指数関数、ベクトルの外積、固有値等の基礎的な計算力を万遍無く問い、全体的な学習習熟度を測ることを意図している。</p>
専門基礎 (機械工学科)	<p>大問1（材料力学）・問1：引張強度を問う問題。</p> <p>大問1（材料力学）・問2：両端支持はりの反力、SFD、BMDを問う問題。</p> <p>大問2（熱工学）・問1：比熱と熱量を問う問題。</p> <p>大問2（熱工学）・問2：カルノーサイクルの熱効率を問う問題。</p> <p>大問3（流体工学）・問1：流体の圧力とパスカルの原理を問う問題。</p> <p>大問3（流体工学）・問2：ベルヌーイの定理を問う問題。</p>